



横浜市立松本中学校 学校だより

第3号

令和8年6月26日

まなび つながり おもいやり とともに生きる 松本の子

凡事徹底 —応援される人に—

校長 齊藤 法子

梅雨空に紫陽花の色がひととき鮮やかに映える季節となりました。先日の体育祭には、多くの保護者・ご来賓の皆様にご来校いただき、誠にありがとうございました。生徒たちはどの競技にも真剣に取り組み、1か月間クラスで積み重ねてきた練習の成果を、存分に発揮していました。仲間と力を合わせて挑む姿からは、クラスの団結力の高まりが感じられ、大変頼もしく思いました。

また今月は、地域のお祭りに参加させていただき、地域の皆様と温かい交流の時間をもつことができました。近年、ライフスタイルの変化によりご近所づきあいが希薄になりつつあると言われますが、松本中学区では伝統文化を大切にし、世代を超えてつながりを育てておられることに深い感銘を受けました。

さて、1年生のPAA、2年生の自然教室、3年生の修学旅行、そして体育祭や定期テストと、4月から続いた慌ただしい行事を無事に終え、生徒の皆さんは少しほっと一息ついている頃かと思います。こうしたときこそ、「当たり前のことを当たり前に行う」いわゆる「凡事徹底」を心がけてほしいと思います。あいさつや礼儀を大切にすること、感謝の気持ちをもつこと、時間やルールを守って生活すること。どれも特別なことではありませんが、人としての信頼を築く大切な土台です。

現在開催されているサッカーワールドカップでは、日本代表が強豪国を相手に堂々と戦う姿が多くの人の心を動かし、世界中から高い評価を受けています。その理由は、チームの組織力や戦術の高さだけでなく、最後まで諦めない姿勢や、ピッチ上で見せるフェアプレー精神にあります。さらに、試合の勝敗にかかわらず、ロッカールームをきれいに整えて立ち去る礼儀正しさも、世界から称賛される理由の一つです。また、日本人サポーターが試合後にスタンドのごみ拾いを行う姿も、チームを支える原動力となり、世界中で高く評価されています。これらの行動は大変素晴らしく、同じ日本人として誇りに思います。しかし、私たち

にとって決して特別なものではなく、日頃から家庭や学校で大切にしている「当たり前の行動」です。この“当たり前”を丁寧に積み重ねる行動習慣や価値観こそが、その人自身を形作り、やがて世界で活躍する人へと成長させていくのだと思います。そして、そうした人は周囲から信頼され、応援される存在になるのだと思います。

松本中学校でも、生徒・教職員が共に「凡事徹底」を大切にし、お互いに信頼し合える温かい学校づくりを進めていきたいと考えています。そして、地域や保護者の皆様から応援される学校であり続けたいと願っています。



燃やせ青春 刻め伝説

体育祭実行委員長 林 成美

6月10日（火）に体育祭が行われました。当初予定していた9日（月）は天候に恵まれず延期となりましたが、当日は気温も涼しく、過ごしやすい天候の中で体育祭を実施することができました。

今年度のスローガンは「燃やせ青春 ～刻め伝説～」です。このスローガンには、「燃えるように熱く、みんなが青春を感じられ、松本中学校の伝説に刻まれるような、これまでにない体育祭にしたい」という思いが込められています。

3年生の修学旅行や2年生の自然教室もある中で、全校として忙しいスケジュールではありましたが、体育祭実行委員を中心に各クラスが団結し、着実に練習を積み重ねていきました。限られた時間の中でも、それぞれができることに一生懸命取り組む姿が見られました。

時にはうまくいかず、ぶつかることもありましたが、生徒一人ひとりが「クラスのために」という思いをもち、より良い競技を目指して努力していたからこそ、その経験がクラスの絆を深めることへとつながりました。

また、体育祭実行委員は準備から当日の運営に至るまで、本当によく動き、全体を支えてくれました。その姿はとても頼もしく、今後もクラスを支えるリーダーとして活躍してくれることを期待しています。

さらに、前日準備では多くの生徒が自分の役割を責任をもって遂行し、てきぱきと準備を進めていました。例年よりもややスムーズに準備が進み、体育祭を迎えるにあたり、生徒たちの意識の高さと協力する姿勢を強く感じることができました。

当日は、競技だけでなく応援にも熱が入り、グラウンド全体が大きな一体感に包まれていました。仲間を全力で応援する姿や、最後まであきらめずに競技に取り組む姿は、まさにスローガンの通り「燃える青春」を体現するものでした。

この体育祭が、生徒一人ひとりの心に残り、松本中学校の新たな伝説として刻まれることを願っています。そしてこの経験が、これからの学校生活の支えとなり、仲間との絆をさらに深めてくれることと思います。

最後に、地域の皆さま、保護者の皆さまには、体育祭に向けて様々な面でご支援・ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



修学旅行を終えて

3学年主任 川崎 泰裕

5月24日（日） 午前7時過ぎ、予定よりもかなり早い電車に乗って羽田空港の決められた集合場所にやってきた10人ほどの3年生。その行動からも、ワクワク、ドキドキが伝わってきます。その輪は少しずつ増えていき、8時には学年生徒約140人が集結しました。「羽田空港に来る」というだけでも学校生活にはない非日常的な活動。ここから始まるさらに非日常的な修学旅行に、みんなが高揚している様子が見て取れました。

飛行機の離陸時、着陸時には歓声が上がリ、みんなのワクワク、ドキドキがより一層沸き上がったように思います。長崎についてからの最初のプログラムは、平和学習。長崎への修学旅行の一番の目的がまさにこの平和学習です。語り部さんの橋本富太郎さんは、被爆当時1歳11か月で、当時の記憶はないということでしたが、ご両親の残された記録や当時の写真、ご自身の平和への思い、原爆への思いを短い時間の中で語っていただきました。

原爆資料館の中に入ってから、写真や原爆の衝撃で原形をとどめていない遺品に興味深くじっくりと見学する松中生たち。当時の長崎や被爆者の方々に思いを馳せ、平和や戦争反対への思いを強くしたことでしよう。ボランティアガイドさんと一緒に回った碑めぐり。私も1つの班と行動を共にしましたが、興味深い話ばかりで、話に引き込まれ、あっという間の90分でした。

長崎のシンボルともなっている平和祈念像の前に集まり、平和宣言を行いました。宣言の中の「平和」とは何かを一人ひとりが考え、平和であることの素晴らしさを私たちの言葉で語り継いでいきます。」という言葉の通り、この修学旅行で学んだこと感じたことを、身近にいる人たちに語ってほしいものです。

この黄学年の行事は、天気にも恵まれることが多く、直前まで雨予報があっても、当日には雨に降られず行事が決行できたことばかりの晴れ学年。初日もそうでしたが、2日目の午前中は天気に大きく左右される軍艦島クルーズ。晴天の中、船は出航し、まさに軍艦のようないで立ちの島が現れました。事前学習でも、軍艦島を調べていた生徒も多く、ガイドさんの話にしっかり耳を傾けていました。栄枯盛衰とはまさにこのことで、全盛期には日本で最先端の鉄筋コンクリートの建物が立ち並び、各家庭にも早々にテレビが設置されていたとか。それが廃坑となってから52年、廃墟となった町の跡を見て、皆は何を感じたのでしょうか？

この日の午後は、みんなが楽しみにしていた班別自主行動。思い思いの行程を計画し、長崎の町に繰り出していきました。途中途中で見かける松中生たちは、本当によい表情を浮かべ、たまたま昼食に立ち寄ったお店で出くわした1つの班は、長崎名物のトルコライスに舌鼓を打っていたところでした。

班別自主行動の集合場所に集まってきたみんなの表情には、疲れと共に充実していたことを感じさせる笑顔がこぼれていました。口々に「〇〇に行った！」「〇〇を買った！」と、この半日の自分たちの収穫を自慢げに話してくれ、充実感がみなぎっていました。

夜には学年みんなで学年レクを楽しみましたが、実行委員の企画 先生たちの学生時代クイズと、有志たちのダンスやコントで、修学旅行一番の盛り上がりを見せました。会場が一体となる感じがあり、これまでの2年間で培ってきたものがここに表れていました。

最終日には佐賀県の干潟に立ち寄り、干潟で泥だらけになりながらのガタリンピックを行いました。無邪気に泥まみれになりながら、体育祭より一足先に力を合わせて綱引きも行いました。大人になって思うのは、「最後に泥だらけになりながら遊んだのはいつのことだっただろうか？」ということですが、黄学年のみんなは、「泥だらけになりながら、本気の綱引きやリレーを修学旅行でやった！」という記憶が、いつまでも残っていくことでしょう。その思い出がまたうらやましく思います。学びあり、笑いあり、思いでありのよい修学旅行になったかと思います。修学旅行を過ぎた思い出にせず、ここでの学びを、2学期以降にも生かしてってもらいたいと思います。

2 年校外学習 ～共働育心～

2 学年主任 吉田 賢二

6月1日と2日の2日間、自然教室に行ってきました。初日のハイキングでは、仲間と声を掛け合いながら最後まで歩ききり、氷穴体験ではひんやりとした空気や神秘的な景色に驚く様子が見られました。牧場体験では、牛のえさやりや乳しぼりに最初は緊張しながらも進んで挑戦し、自分たちで作ったバターのおいしさに笑顔が広がっていました。また、野外炊事では、役割分担をしてカレーやほうとう作りに取り組み、友達と協力して完成させる喜びを味わうことができました。夜のキャンプファイヤーでは、ダンスやゲームで大いに盛り上がり、仲間との絆を深める時間となりました。こうした活動を通して、自然に親しむ心や協力する力が育まれ、自然教室の目的は十分に達成できたと感じています。今回の経験を今後の学校生活に生かし、さらに成長していくことを期待しています。

校外学習を終えて

1 学年主任 小松 一彦

4月27日に初めての校外学習として足柄に行ってきました。朝から雨が降る中での出発となり、雨天バージョンに切り替えての実施となりました。今回の大きな目的である「集団づくり」を意識し、仲間とのつながりや新たな人間関係を築くために、様々なグループワークに挑戦しました。活動中は一人ひとりが意見を出し合い、作戦を練る姿が印象的でした。最初は遠慮がちな空気が流れていましたが、課題をクリアするごとに自然に声を掛け合い、成功した時にはみんなで歓声を上げて喜ぶ姿がたくさん見られました。一人では難しい事も、力を合わせれば乗り越えられる貴重な体験を経験できた一日となりました。

さて、中学校三年間は「激動の三年間」とも言われます。心と体が大きく成長する中で、自分自身と向き合う場面がたくさんあります。この三年間は人間関係をうまく築けることもあれば、失敗することもあり、時には悩んだり、次にどうしたら良いかを考えることもあるかと思います。自分の考えが常に正しいわけではなく、違う角度や視点など、人によって考えや意見が違うことを理解することが大切です。互いを認め、尊重する中でおもしろいやりをもって生活してほしいと思います。今回の校外学習を機に、これからの中学校生活がより良い人間関係のもと、たくさんの成長につながるきっかけとなる事を期待しています。

保護者の皆様には朝早くのお弁当の準備などご協力をいただき本当にありがとうございました。これからもたくさんの経験の中で成長していく子どもたちを、共に支えていけたらと思います。今後ともよろしくお

願います。

【7月の行事予定】

日	曜	行事	日	曜	行事
1	水	一斉下校	11	土	
2	木	一斉下校	12	日	
3	金		13	月	三者面談③
4	土		14	火	三者面談④
5	日		15	水	三者面談⑤
6	月		16	木	大掃除
7	火	一斉下校	17	金	1学期終業式
8	水		18	土	
9	木	三者面談①	19	日	
10	金	三者面談②	20	月	海の日
			21	火	夏季休暇（～8月26日）

<第74回卒業式について>

本年度の三年生の門出を祝う第74回卒業式ですが、**3月10日（水）に行うことが正式に決定**いたしました。三年生の保護者様には、ご予定に組み込んでいただけるようお願いいたします。



<スクールカウンセラーについて>

予約は直接カウンセラーにお電話いただくか（相談室直通電話：323-2685）、勤務日以外は学校までお問い合わせください。どんなことでも遠慮なくご相談いただければと思います。

<7月の開室日>

○佐藤 文彦 先生

3日(金)、10日(金)、17日(金)、24日(金)

○池田 早織 先生

1日(水)、8日(水)※AMのみ、15日(水)

